

評価結果

CASBEE®-建築(新築)

使用評価ソフト : CASBEE-BD_NC_2016 (v3.0)

認証番号 : CBL-CAS建築-0017-21

交付日 : 2021年11月26日

常盤工業株式会社本社事務所棟

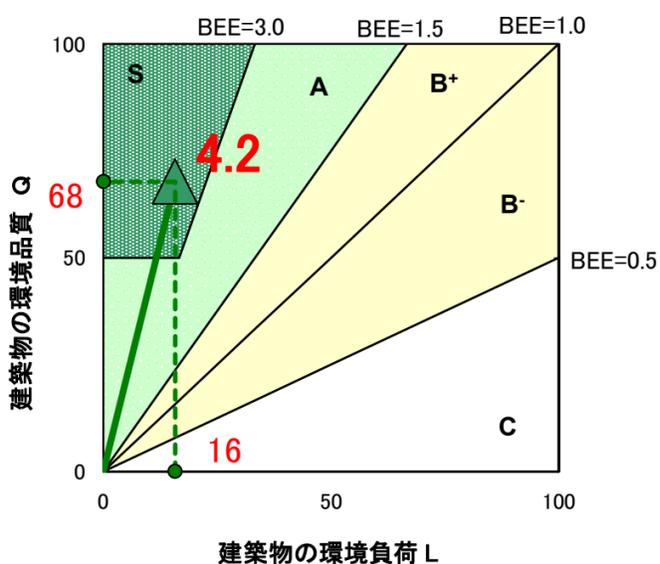
一般財団法人ベターリビング

建物用途	事務所	敷地面積	3,991m ²
建設地	静岡県浜松市	建築面積	1,035m ²
気候区分	6地域	延べ面積	1,771m ²
地域・地区	第一種住居地域、法22条区域	階数	地上2F
竣工日	2021年11月	構造	RC造

建築物の環境効率 (BEE: Built Environment Efficiency)



S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

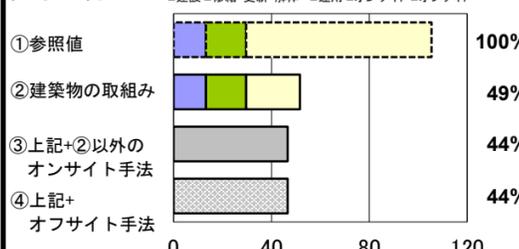


$$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質} Q}{\text{建築物の環境負荷} L} = \frac{25 \times (SQ-1)}{25 \times (5-SLR)} = \frac{67.7}{15.8} = 4.2$$

ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



標準計算

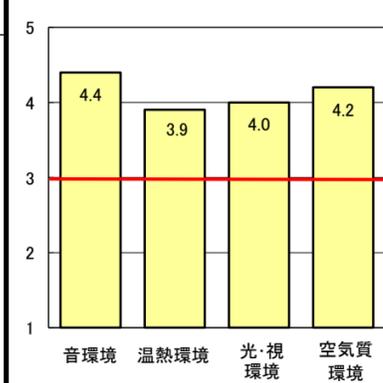


このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

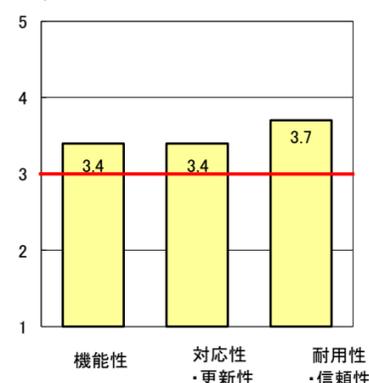
中項目の評価(バーチャート)

Q 建築物の環境品質(建築物の居住環境のアメニティを向上させる性能評価) SQ = 3.7

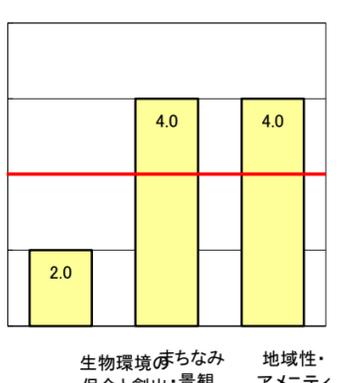
Q1室内環境 SQ1= 4.0



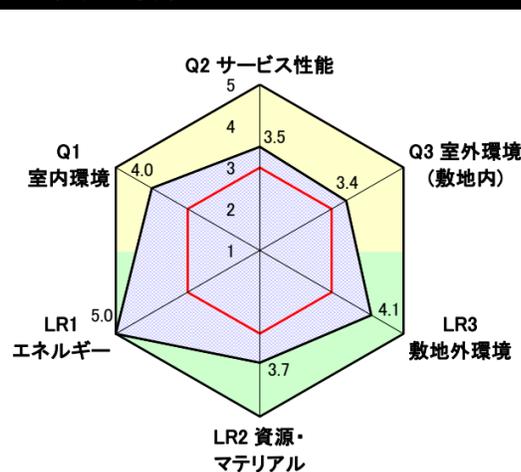
Q2サービス性能 SQ2= 3.5



Q3室外環境(敷地内) SQ3= 3.4

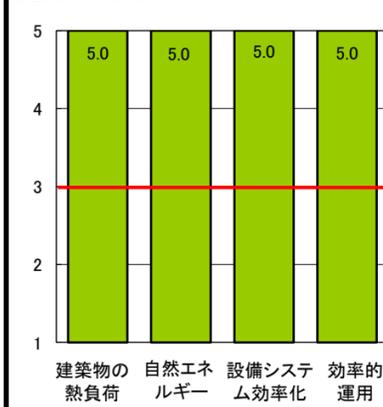


大項目の評価(レーダーチャート)

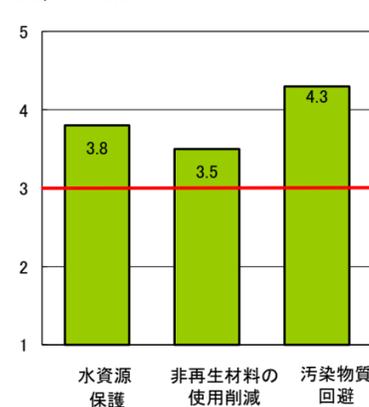


LR 建築物の環境負荷低減性(建築物の環境負荷を低減させる性能評価) SLR = 4.3

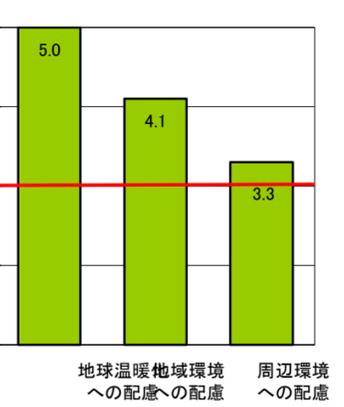
LR1エネルギー SLR1= 5.0



LR2資源・マテリアル SQ3= 3.7



LR3敷地外環境 SLR3= 4.1



CASBEE-建築(新築)2016年版
常盤工業株式会社 本社改築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40	-	-	4.0
1 音環境						4.4	0.15	-	-	4.4
1.1 室内騒音レベル		開口部はT-1以上、空調は放射空頭をメインとしてNC-40以下を確保				4.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T-1もしくはT-2以上の遮音等級を確保。十分な防音サッシを採用。				5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		室内の大半でT-2以上の遮音等級を確保				5.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	-	
1.3 吸音		主要室の床面はタイルカーペット、天井面は岩綿吸音板にて計画				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.9	0.35	-	-	3.9
2.1 室温制御						4.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		外壁U=1.0、屋根U=0.5(W/m2k)の外断熱で計画、Low-Eガラス採				4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		冷暖房輻射パネルによるベース空調とし、対流式空調を併用。				5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						2.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		上下温度差や気流に配慮して、主要室に除湿型放射パネル採用。				5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						4.0	0.25	-	-	4.0
3.1 昼光利用						3.2	0.30	-	-	
1 昼光率						2.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		東面にライトシェルフ、吹抜上部のトップライトなど2種類以上を採用				5.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		ブラインドにスクリーン、庇のうち、1種類以上を組み合わせ制御				4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		明るさ感重視のアンビエント全般照明で500lx以上1000lx未満を確保				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		グループごとに照明制御、また明るさセンサで照度制御				5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		規制対象外の建築材料を全面的使用。VOCにも配慮した材料を採				5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
1 換気量		建築基準法の20CMH/人の1.2倍以上の換気量を満たしている。				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		開閉可能な自然換気窓で、床面積の1/20以上の開口部を確保				4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		社内全館禁煙ルールにて喫煙管理				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		10.59㎡/人の執務スペースを確保				4.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室天井高は全て2.9mとし、周囲に窓を設置				5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		2階に休憩室、屋外テラスを設置				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		環境配慮型事務所で環境性能を視覚的に表現する内装計画				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		必要な清掃用の給排水、コンセントなどを設置				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						4.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		アクリル系樹脂仕上げで、耐用年数30年				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:カーペットは20年、壁:複層仕上げ塗材は20年				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		各種配管の総重量を計算して算出				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		井水及び太陽熱を熱源とする放射冷暖房と、パッケージ空調を併用				4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		雨水貯留し、植栽灌水に使用。井水タンクに水栓を、洗浄水に使用				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		電源車接続設備を設け、主要部のコンセントを停電時に利用可能				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信設備、サーバー室の床面に対する洪水時の浸水対策等				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1階の階高は4.05m、2階の階高は3.95m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	居住空間にて壁長さ比率を算出し、0.25となった	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	各端子盤から各席まではOAフロア、仕上げ材を痛めることなく更新	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	屋外に設置しているため、外部での更新、機能維持が可能	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		外構と建物の緑化を行い、環境配慮型の建物であることを可視化	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		来所者も使える開放的なホール、ロビーを設け、休日に地域開放す	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	5.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		エネルギー消費性能計算プログラム 算定結果よりBPI 0.72	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		太陽光発電により算出	5.0	0.10	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.38	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な設備機器について、システム効率の評価が可能な計画	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	定期的に性能検証会議を開催し、エネルギー分析と運用改善を予	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水貯留タンク 設置、植栽灌水に使用、井戸水を屋上灌水に利用。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		杉材(針葉樹)木材を使用し、FSC森林COO承認業者より納入。	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		仕上、屋根、外壁、OAフロアなど分別が容易と確認	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤、シーリング材、防水工事材料、塗料、床仕上材の物質を確	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	フロンガスは使用なし。吹付以外の断熱材のODP値は0とした。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	4.1
1 地球温暖化への配慮		標準計算の換算スコア=5.0	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
2.1 大気汚染防止		燃焼系熱源は使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		卓越風による建物配置や屋根面の緑化で多数の取組み	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	建設地は、条例等による駐車場付置義務なし	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	室外に古紙以外のごみのストックスペース設置	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	第一種住居地域、1ランク上の基準で作成。5、10mラインに影響無	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光源の点滅、作動などなし	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	外壁材には砂状の吹付け材を用い、反射光抑制。サンプルで確認	5.0	0.30	-	-	